

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記号	コア採取率 (%) 最大コア長 R Q D [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(標準貫入) 試験 (N 値 ~ 深度) 図					原位置試験 (孔内水圧 含む)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)							
															N	0	10	20	30												40	50					
			花崗斑岩	明褐灰	Dg					3	55.07m: 傾斜55° で幅1mmの暗灰色粘土を挟む。	CL'																									
56											Vg																				cg	2	55.41m以下では割れ目沿いに砂状化することが多く、一部の割れ目に幅1mm程度の軟質～やや硬質な白色粘土が付着するが、粘土脈としては連続しない。	55.41m: 傾斜55° の割れ目で、上端側の20° の割れ目、下端側の80° の割れ目が止まっている。割れ目には挟在物が認められない。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	55.80m: 傾斜60° で幅1mm以下の暗灰色粘土と幅0~3mmの不連続な方解石脈を挟む。	56.18m・50° ~56.23m・50° の割れ目に囲まれてやや軟質化する。	
																																	Bg	bg	3	56.54~56.57m: 変質部 上端60° で直線的にシャープであるが、淺部傾斜長部で70~90° で大きく湾曲、下部60° で1箇所湾曲してシャープに連続する。径1mm前後の石英粒と径5~10mmの粘土化した岩片を多く含む。軟質な白色の粘土質炭灰部で全体の色調は灰白~明褐色で斑模様を呈する。幅10~15mmで、淺部側の56.52m付近で挟在する粘土脈は2つに分岐する。	56.57~57.63m: 傾斜50~60° とこれと斜交~直交する20~60° の割れ目が主体である。割れ目には砂、粘土など挟在物はない。一部で割れ目と同傾斜の低密着割れ目も分布する。
57											Vg																				cg	2				57.63~57.75m: 傾斜50~60° の割れ目、低密着割れ目が5~10mm間隔で平行に分布し軟質化する。	57.75~58.07m: 割れ目は少ないが、主に58.00~58.15m間に傾斜40~50° の低密着割れ目が多い。砂、粘土の挟在物はない。57.90~58.37m間に傾斜80~90° の割れ目が連続し、他の割れ目との交差部の一部は径3~5mmに細片化する。
58																																	Bg	bg	2	58.37~58.85m: 傾斜20~30° の割れ目と80~90° の割れ目が交差し、交差部の一部はごく砂状化したり、径5mm前後に細片化する。粘土は挟まない。	
59											Vg																				cg	3				58.85~58.96m: 傾斜50° の割れ目が主体である。	58.96m: 傾斜50° の割れ目は直線的でシャープに連続し、面には条線が見られる。割れ目沿いに径5mmのやや扁平化した細岩片と岩片間を埋める明褐色の軟質粘土からなる粘土泥じり岩片状部が幅10mmで見られるが不連続で、周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記号	コア採取率 (%)	岩級区分	標準貫入試験 (N 値 ~ 深度) 図		室内試験 (孔内水圧)	掘進月日	掘進速度 (cm / 時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	給圧 (kN / MPa)	送水圧 (MPa)	送水量 (L / 分)	排水量 (L / 分)																																																																																									
														(N 値)	(深度)																																																																																																	
61				花崗斑岩	灰褐色	緑灰	Eg	Vg	dg	3	<p>●60.06~60.30m: 破砕部 60.06m: 粘土状部 (Hc-1) 傾斜45° で直線的にシャープに連続する幅5mmの軟質な一部や球状な暗緑灰色粘土からなる。石英粒や岩片は含まない。</p> <p>60.06~60.16m: 粘土質硬状部 (Hc) 上端45° で直線的にシャープに連続、下端は不明瞭。径2~3mmの石英粒、径5~10mmの粘土化した花崗斑岩の岩片を多く含む。軟質。緑色を帯びた灰白色を呈する。幅約30~50mm。</p> <p>60.16~60.30m: 粘土泥じり岩片状部 (Hj) 上端不明瞭、下端60° で直線的にシャープに連続。径10mm前後の粘土化〜硬さ「D」の花崗斑岩の岩片と岩片間に傾斜に分布する幅1~2mmの灰白色粘土脈からなる。明褐色〜緑灰色を呈する。</p> <p>60.38~60.74m: 割れ目は消滅しかかっているが、傾斜50°~60° の割れ目の一部が残留する。割れ目や岩片間に幅1mm前後の軟質白色粘土脈が分布し、傾斜50°~60° の石英、方解石の白色鉱物脈が幅2~5mmで分布する。</p> <p>60.74~60.96m: 径5~20mmの硬さ「D」の花崗斑岩の岩片と粘土化した基質からなる角礫状を呈するが、原岩組織は認められる。</p> <p>60.96~61.30m: 低密着割れ目沿いに主に径10~20mmの細片化する。岩片に粘土が付着していることが多い。</p> <p>61.25~61.29m: 傾斜15° で緑灰色化した岩片が分布する。割れ目や岩片の表面に径0.5mm前後の黄鉄鉱が晶出する。幅10mmの灰色の石英脈を伴う。</p> <p>61.39~61.47m: 変質部 上端20°、下端5° の直線的でシャープな割れ目に囲まれ、径5~20mmの硬さ「D」の岩片と粘土化した基質からなる。</p>	CL'																																																																																																				
62																																花崗斑岩	灰褐色	緑灰	Eg	Vg	cg	3	<p>●61.47~61.52m: 破砕部 61.47~61.52m: 粘土質硬状部 (Hc) 上端45°、下端45° でともに直線的でシャープに連続。径1~2mmの石英粒、径2~10mmの大半が粘土化した花崗斑岩の岩片を多く含む。軟質。緑色を帯びた灰白色を呈する。幅50mm。</p> <p>61.52m: 粘土状部 (Hc-1) 傾斜45° で直線的にシャープに連続する幅1mmの軟質な暗緑灰色粘土からなる。</p> <p>61.52~62.42m: 傾斜20°~60° とこれに斜交〜直交する50°~60° の割れ目が分布し、このうち、傾斜20°~30° の割れ目は直線的でシャープに連続することが多い。割れ目は薄く砂状化したり、幅1mm前後の軟質な暗緑灰色〜灰白色の粘土を挟むことが多い。</p> <p>62.38m: 傾斜30° の割れ目は、交差する60° の割れ目を止めている。割れ目には挟み物が認められない。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、凝縮的な割れ目も存在しない。</p> <p>62.42~62.49m: 上端25°、下端20° の割れ目に囲まれ、径5mm前後の硬さ「D」の岩片と粘土化が著しい基質からなる。</p> <p>62.49~62.74m: 変質で著しく軟質化するが、割れ目の一部が残留する。割れ目は傾斜10~40° が主体で、幅0.5~1mmの暗緑灰色、灰白色の粘土脈を挟む。</p> <p>62.67m: 傾斜40° で幅0.5mmの軟質な灰白色粘土を挟み、その下端傾斜3~12mmに径5mm前後の白色礫と軟質な白色粘土脈を伴う。</p> <p>62.74~63.29m: 割れ目は消滅しかかっているが、傾斜70° 前後と40° 前後の割れ目、低密着割れ目が残留する。粘土脈は挟まないが、岩片間にフィルム状の淡緑灰〜白色粘土が付着することが多い。</p>	D'																																																																								
63																																																												花崗斑岩	灰褐色	緑灰	Eg	Vg	cg	3	<p>62.49~62.74m: 変質で著しく軟質化するが、割れ目の一部が残留する。割れ目は傾斜10~40° が主体で、幅0.5~1mmの暗緑灰色、灰白色の粘土脈を挟む。</p> <p>62.67m: 傾斜40° で幅0.5mmの軟質な灰白色粘土を挟み、その下端傾斜3~12mmに径5mm前後の白色礫と軟質な白色粘土脈を伴う。</p> <p>62.74~63.29m: 割れ目は消滅しかかっているが、傾斜70° 前後と40° 前後の割れ目、低密着割れ目が残留する。粘土脈は挟まないが、岩片間にフィルム状の淡緑灰〜白色粘土が付着することが多い。</p>	D'																																												
64																																																																																						花崗斑岩	灰褐色	緑灰	Bg	Vg	bg	2	<p>62.49~62.74m: 変質で著しく軟質化するが、割れ目の一部が残留する。割れ目は傾斜10~40° が主体で、幅0.5~1mmの暗緑灰色、灰白色の粘土脈を挟む。</p> <p>62.67m: 傾斜40° で幅0.5mmの軟質な灰白色粘土を挟み、その下端傾斜3~12mmに径5mm前後の白色礫と軟質な白色粘土脈を伴う。</p> <p>62.74~63.29m: 割れ目は消滅しかかっているが、傾斜70° 前後と40° 前後の割れ目、低密着割れ目が残留する。粘土脈は挟まないが、岩片間にフィルム状の淡緑灰〜白色粘土が付着することが多い。</p>	D'																		

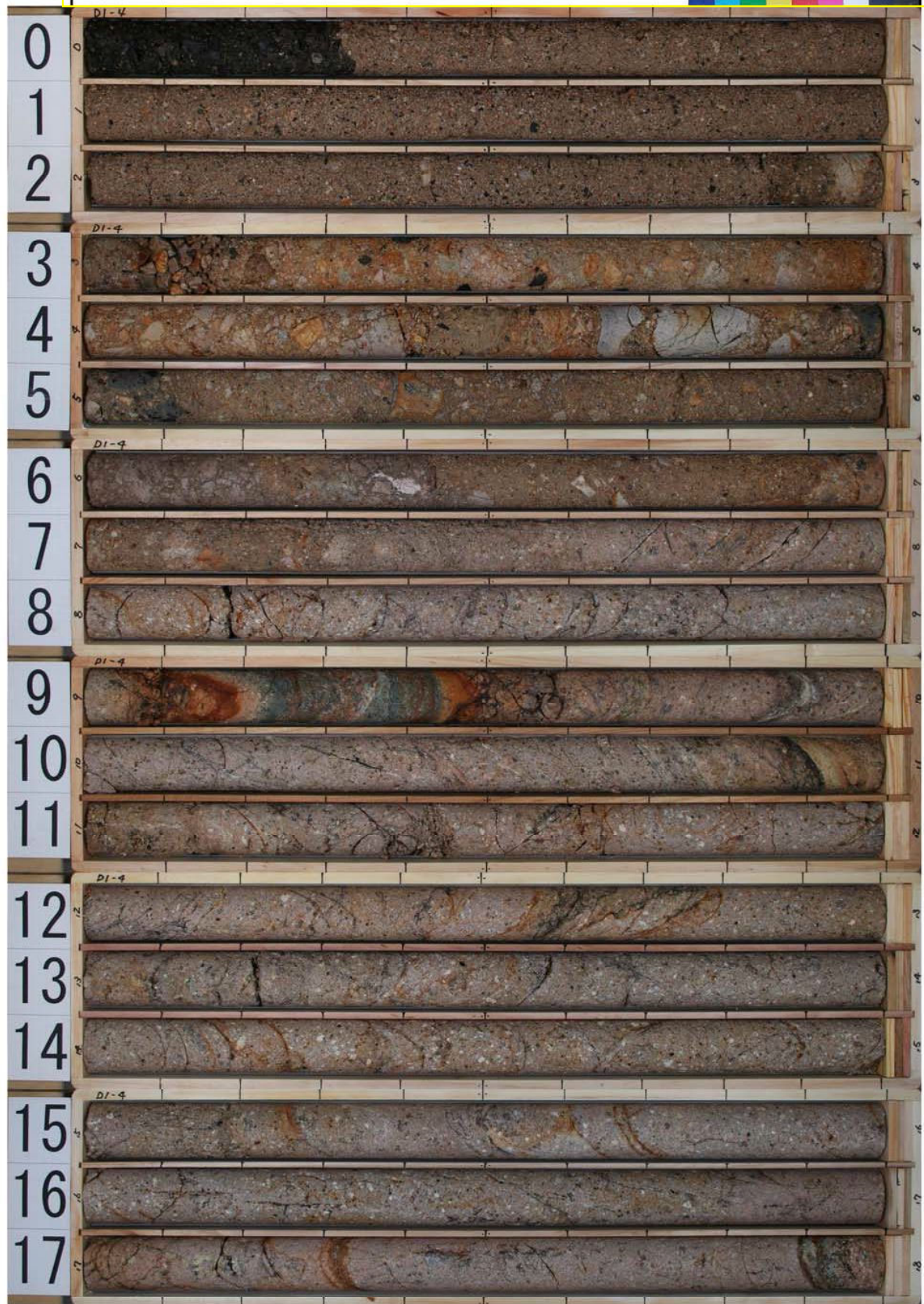
標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記号	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm) R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(標準貫入) 試験		原位置試験 (孔内水圧計)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm / 時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN · MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L / 分)	排水量 (L / 分)	
															(N 値 ~ 深度) 図	(N 値)												
61				花崗斑岩	灰褐																							
				明褐灰	緑灰																							
62																												
63				花崗斑岩	灰褐																							
64																												

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記号	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(標準貫入) 試験		原位置試験 (孔内水圧計)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ / ビット	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)	
																(N 値)	(図)											
		42.55	70.00																									
		66		花崗斑岩	灰褐色		Wg	Bg	bg	2			5	GM														
		67		花崗斑岩	明褐色		Vg	Cg	Eg	3		4	GM															
		68		花崗斑岩	明褐色		Dg	Cg	Eg	3		2	GM															
		69		花崗斑岩	灰褐色		Dg	Cg	Eg	2		3	GM															
				花崗斑岩	明褐色		Dg	Cg	Eg	2		5	GM															

孔番 H24-D1-4 孔

深度 0.00m ~18.00m

孔口標高 6.95m



孔番 H24-D1-4 孔

深度 18.00m ~ 36.00m

孔口標高 6.95m



孔番 H24-D1-4 孔

深度 36.00m ~ 54.00m

孔口標高 6.95m



孔番 H24-D1-4 孔

深度 54.00m ~ 70.00m

孔口標高 6.95m



余白

H27-B-3

余白

ボーリング柱状図

調査名	[Redacted]										
ボーリングNo.											1
事業・工事名	[Redacted]										

ボーリング名	H27-B-3		調査位置	X:162.490, Y:897.400			北緯	35° 45' 10.54"	
発注機関	日本原子力発電株式会社			調査期間	2015年5月23日 ~ 2015年7月4日		東経	136° 1' 0.71"	
調査業者名	[Redacted]		主任技師	[Redacted]		現代場	コ	ア	ボーリング責任者
孔口標高	7.06 m	角			方	地盤勾配	水平	使用機種	試験機
総掘削長	180.00 m	度			向	鉛直	0.0°	ハンマー落下用具	ポンプ

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	変質	記事	コア採取率 (%)	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 (N値) 試験		原位置試験 (孔内水平基準)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)			
													(N値~深度)	図													
				黒褐					0.00~10.05m: 盛土 0.00~0.35m: 礫 径2~3cm程度の黒色砂岩の角礫からなる。																		
				にぶい黄褐					0.35~1.70m: 礫混じり砂~礫質砂 径2~20mm程度の花崗岩類、黒色砂岩の角~亜角礫を30%以下で含む粗粒砂からなる。ルーズ。																		
				灰黄褐					1.70~10.05m: よく締った礫混じり粗砂~粗砂~砂礫からなる。 1.70~5.27m: 砂																		
				盛土																							
				にぶい黄褐					3.50m以深は粗粒砂が主体となる。 3.61~3.67m: マンガンで表面が黒色化した石英粒が濃集している。																		

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の状態	風化質	変質	記 事	コア採取率 ← (%) 最大コア長 ← cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(標準貫入) 試験 (N 値 ~ 深度) 図		原位置試験 (孔内水圧 含む)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm / 時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ / ビット	給 圧 (kN · MPa)	回 転 数 (rpm)	送 水 圧 (MPa)	送 水 量 (L / 分)	排 水 量 (L / 分)		
														N 値	値													
										5.27~10.05m: 砂礫 径2~170mm程度の花崗岩類、砂岩の角~亜角礫を含む粗粒砂からなる。																		
										5.60~7.07m: 砂を挟む。中粒砂主体で塊状。ラミナなどの堆積構造は分布しない。径2~3mmの石英粒を少量(5%未満)含む。																		
										6.50m以深は締まりが良い。																		
										8.01~8.37m: 砂を挟む。																		
										9.21~9.66m: 飯食した鉄棒を含むモルタル(一部に花崗岩細骨材少量含む)。																		
										9.80m付近にモルタルを含む。																		

標 尺 (m)	標 高 度 (m)	深 度 (m)	柱 状 図	岩 種 区 分	色 調	硬 軟 状 態	コ ア 形 状	割 れ 目 の 状 態	風 化 質	記 事	コ ア 採 取 率 (%) 最大コ ア長 R Q D [%]	岩 級 区 分	孔 内 水 位 (m) 測定月 日	(標準貫入) 試験 (N値～深度) 図					原 位 直 径 試 験 (孔内水圧 基礎)	室 内 試 験	掘 進 速 度 (cm/時)	孔 径 (mm) ／ 孔 壁 保 護	コ ア チ ュー プ ／ ピ ット	給 水 量 (cm^3) ／ 分	送 水 圧 (MPa)	送 水 量 (L/分)	排 水 量 (L/分)
														0	10	20	30	40									
11	-0.05	10.05		花崗斑岩 明礬灰				Dg cg δ 2	10.05～180.00m: 花崗斑岩 径1～3mmの石英、長石を斑晶とする花崗斑岩。長石は白濁化することが多い。 10.05～12.96m: QL 硬さ「C」主体で上部側の10.05～11.20mと中央部の11.82～12.00mは風化が進んで硬さ「D」である。 硬さ「C」の区間の一部で割れ目に挟在物を含まない部分があるが、多くは風化により砂や凝灰質粘土を脈状に挟む。長石の多くは白濁化している。 10.70～10.80m: 硬さ「C」の硬質岩片が残留する。 11.20～11.82m: 硬さ「C」主体で挟在物も少ない。一部で密着度の低い割れ目を有む。 11.40～11.55m: 割れ目が交差し岩片化するが、劣化は伴わない。 11.82～12.00m: 上下位よりも軟質化する。11.97～12.00mは粘土化が進む。 12.00～12.96m: 硬さ「C」主体であるが、割れ目に沿いに幅1mm程度で薄く砂状化することが多い。また、各割れ目は弱くマンガン染染を受け、面の一部は黒褐色化する。 12.96～14.62m: D, QL 上部側と下部側はD級。中央部はQL級が中石的に分布する。 D級は硬さ「E」で原岩組織と割れ目は残留しているが、全体に硬質な砂状化が進み、所々、灰白色の粘土を径5mm前後の斑点状～幅1～3mmの脈状に含む。 13.64～14.30m: 硬さ「C」の岩片主体で20～40°の密着度の低い割れ目が同方向に1～2cm間隔で分布する。 14.22m: 43°で幅1mmの軟質黄色粘土を挟む割れ目は、交差する80°で幅1mmの石英脈を止めている。割れ目周辺の岩部に原岩組織は認められ、系統的な割れ目も存在しない。 14.30～14.62m: 上部17°で幅1～5mmの軟質赤灰色粘土を挟む割れ目。下線50°の割れ目で開かれ著しく軟質化しているが、一部に硬さ「D」も残留する。原岩組織や割れ目はわずかに残留する。所々に幅1～2mmの軟質灰白色粘土を脈状に含む。 14.62～20.04m: QL 20～40°の割れ目が主体で、割れ目合いに風化で砂状化が拡大する部分も含む。16.49m未満は硬さ「D」主体、16.49m未満は硬さ「C」主体である。																		

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 試験 (N 値 ~ 深度) 図					室内試験 (孔内水位)	掘進速度 (cm / 時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ / ビット	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L / 分)	排水量 (L / 分)			
															N 値	10	20	30	40											
16			花崗斑岩	明礬灰	Dg	Vg	cg	δ	2		15.33~15.43m: 風化による砂状化と熱水変質による粘土化で軟弱化著しい。上下端とも35°前後の割れ目である。	10	100																	
					Ex	Vg	dg	ε	3		15.73~15.80m: 80°の割れ目沿いに薄くマンガン染染を受ける。	10	100																	
				にんい種	明礬灰	Dg	Vg			2		16.31m - 50°の割れ目沿いに幅5~15mmでやや硬質な白色シルト~粘土を挟む。 16.49m: 35°の割れ目から下位は硬さ「C」主体。一部に密着度の低い割れ目を含む。	7	100																
17						Vg				3		16.76~16.87m: 径10~20mmの岩片状を呈する。岩片間は幅1~2mm程度で砂状化する。 17.13~17.31m: 割れ目の一部に幅1~2mmの軟質炭白色粘土を挟む。	8	100																
						cg	δ					17.40~19.00m: 密着度の低い風化割れ目を含む。ハンマーの打撃で割れ目の一部は分離、細片化する。割れ目化し、開口しているものも多い。	8	100																
18			明礬灰	明礬灰	Gg						17.85~18.00m: 割れ目が交差。一部で径20~30mmに岩片化する。粘土や砂は挟まない。 18.05~18.47m: 珪化変質により石英量が多くなり硬化する。																			
											18.43~20.04m: 一部の割れ目沿いや岩芯がマンガン染染を受け、黒褐色化するが劣化は伴わない。	5	100																	
19					Vg						18.90m: 50°の割れ目に幅1~5mmの灰黄褐色砂を挟む。	8	100																	
											19.59m: 40°と80°の割れ目が交差し、80°の割れ目は40°の割れ目に止められる。80°の割れ目は19.65mでは幅10mmで砂状化するが、下位に向かって割れ目は閉じていき、砂の挟入物も分布しなくなる。40°の割れ目の細粒部は局所的である。割れ目周辺の岩盤に原岩組織は認められ、系統的な割れ目も存在しない。	8	100																	

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 最大コア長 R Q D [%]	岩級区分	孔内水位 / 測定月日	標準貫入試験		原位置試験 (孔内水圧計)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)											
															(N値~深度) 図	(N値)																						
											20.04~20.93m: CM 一部に密着度の低い割れ目を含むが、岩片は細碎。長石の一部は白濁化するが、未変質で残留するものが多い。割れ目に挟在物は殆んど分布しない。																											
21											20.93~26.70m: CL 前後の割れ目が主体。一部で70~90°の高角度割れ目と交差する。割れ目沿いに薄く砂状化するが、部分的に砂状化が拡大する部分も含む。また、所々、幅1~2mmの軟質な白色粘土脈を挟む。22.69m以深は硬さ「D」, 22.69~23.71mは硬さ「C」, 23.71m以深は硬さ「D」が主体で、硬さ「C」主体の区間では割れ目に挟在物が分布しないことが多い。 21.14~21.24m: 上傾42°、下端49°の割れ目の間が全体的に風化し、砂状化が進む。酸化、マンガン鉱染が見られる。 21.55~21.65m: 風化による砂状部と硬さ「C」ないし「D」の岩片で砂礫状を呈する。 21.70~22.40m: 高角度割れ目を主体に、幅1mm以下でごく薄くマンガン鉱染や幅1~3mmの軟質な白色粘土脈が分布する。 22.03~22.63m: 70~90°で湾曲して連続する割れ目沿いに幅5~10mmで砂状化し、幅1~2mmの軟質粘土脈を伴う。 22.10~22.45m: 一部に硬さ「C」の岩片を伴う。高角度割れ目沿いが風化する。 22.50~22.64m: 上傾60°で幅2~3mmの褐色粘土脈。下端45°で幅1mmの褐色砂に囲まれて軟質化が著しく、一部で幅0.5mmの白色粘土脈を網状に伴う。 22.91~23.49m: 40°前後の割れ目が同方向に分布し、これらに直交~60°斜交する60~80°の割れ目を止めることがある。40°の割れ目の細粒部は、局所的で系統性に乏しい。割れ目周辺の岩盤に変化が認められない。 23.45~23.71m: 80°で幅1~3mmの軟質白色粘土脈を挟む。 23.71~24.53m: 軟質化し、硬さ「D」主体。 23.71~23.85m: 80~90°の高角度割れ目はマンガン鉱染を伴う。 24.06~24.22m: 硬さ「C」主体。 24.37m: 45°で幅2mmの石英脈を挟む。 24.53~26.70m: 硬さ「C」主体。上位よりも割れ目がやや少なくなる。 24.60~24.92m: 80~90°の割れ目に幅1~5mmのマンガン鉱染で黒褐色砂を挟む。																											
22																																						
23																																						
24																																						

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化質	変質	記 事	コア採取率 (%) 最大コア長 R Q D [%]	岩級区分	孔内水位(測定月日)	(標準貫入) 試験		原位置試験(孔内水圧)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径(mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ビット	給 圧 (kN・MPa)	回 転 数 (rpm)	送 水 圧 (MPa)	送 水 量 (L/分)	排 水 量 (L/分)						
															(N 値)	(値)																	
		36			灰褐	Cg	IVg	γ			35.31m: 60° の割れ目沿いに幅3~5mが砂状化する。 35.47m: 5° の割れ目で90° の割れ目が止められる。5° の割れ目に細粒部は認められない。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。		GM'																				
					にみい褐	Bg	IIIg	β	2		35.94~37.30m: GH 堅硬。割れ目に挟在物は分布しない。 36.07~36.32m: 割れ目沿いや岩芯の一部でマンガン染色を受けるが、劣化は伴わない。密着度の低い割れ目が区間内に散在分布する。		GH'																				
		37			花崗斑岩	Cg	IVg	γ			37.03m: 57° の割れ目沿いの一部で幅3mm前後が砂~細片化する。57° の割れ目を横断する潜在割れ目が37.05m, 37.08mに見られる。57° の割れ目の砂~細片化部は直線状に乏しく、割れ目周辺の原岩組織は認められ、系統的な割れ目も存在しない。 37.30~37.55m: GM 直上位に比べ岩片がやや軟質化する。 37.55~37.69m: CL 上下層をマンガン脈に囲まれ軟質化が進む。マンガンは砂状を呈する。 37.69~37.81m: D 50~60° の割れ目沿いに風化で砂状化が進む。幅1mm以下の白色粘土脈も伴う。 37.81~38.50m: CL		CL'																				
		38			灰褐	Cg		δ	3		38.21m以深は50° 前後の割れ目沿いに風化、砂状化進む。また、少量の幅1~2mmの白色~褐色軟質粘土脈も伴う。		CL'																				
						Bg	IVg	bg			38.50~39.14m: GM 一部で砂割れ目を含むが、密着度は高く、ハンマーの強打でも分離・細片化しない。		GM'																				
		39				Cg		cg	2		39.14~40.79m: CL 密着度の低い割れ目を多く含む。ハンマーの打撃で大半は分離・細片化する。割れ目には砂や粘土を幅1~2mmで挟むことが多い。		CL'																				

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 ← (%) 最大コア長 ← cm R Q D └ [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 (N) 試験 (N 値 ~ 深度) 図		原位置試験 (孔内水圧計)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)																																																																																																																																																																			
															(N) 値	図																																																																																																																																																																													
			花崗斑岩	明褐色 灰褐色							40.14~40.26m : 50~60° の割れ目に幅1~2mmの軟質粘土脈を挟む。	CL'																																																																																																																																																																																	
											Cg IVg																	γ	40.42m以深は岩片自身の軟質化が進み、割れ目沿いの砂状化も拡大する。	CM'																																																																																																																																																															
											Dg Vg																	δ	40.72m : 50° の割れ目に幅1mmの軟質灰白色粘土を挟む。																					CM'																																																																																																																																											
											Cg IVg																	bg γ	40.72m : 50° の割れ目に幅1mmの軟質灰白色粘土を挟む。 40.79~41.83m : 割れ目一部の割れ目を除き、割れ目に挟在物は分布しない。																																									CM'																																																																																																																							
											Cg IVg																	bg γ	41.30m以深は密着度の低い割れ目が多い。一部では開口化する。 41.30m : 60° の割れ目沿いに径2~4mmの石英が多く晶出している。																																																													CM'																																																																																																			
											Eg Vg																	dg ε	41.83~41.95m : 0 上端60°、下端55° の割れ目に囲まれ砂状化する。割れ目と原岩組織は不明瞭である。																																																																																	CM'																																																																															
											IVg																		41.95~42.78m : CL 割れ目は直下の破砕部の上端境界と同方向の40~50° の割れ目が主体。割れ目の多くに粘土脈や砂の薄層を挟む。長石の一部が白濁化している。																																																																																																					CM'																																																											
											Cg Vg																	cg γ	42.36~42.40m : 上下端とも40° の割れ目に囲まれて風化・砂状化する。																																																																																																																									CM'																																							
											Eg Vg																	dg ε	42.78~42.85m : 0 風化で著しく軟質化するが、原岩組織や割れ目の一部は残留する。																																																																																																																																													CM'																			
											Dg Vg																	cg γ	●42.85~42.91m : 破砕部 42.85~42.87m : 粘土凝り塊状部 (H) 上端45° で直線的に、下端41° で波打って連続。径1~2mmの石英粒、径5mmの粘土化した岩片主体。やや硬質。上端の幅1~2mmは風化で明褐色を呈し、明褐色の粘土をフィルム状に伴う。全体としては灰白色を呈する。幅15~25mm。 42.87~42.91m : 粘土凝り岩片状部 (H)																																																																																																																																																																
			Cg IVg	bg γ	上端41°、下端66° でいずれも波打って連続。下端は不明瞭な部分もある。径5~10mmの粘土化~径5「D」岩片からなり、岩片間の一部は粘土~幅1mmの白色軟質粘土脈が分布している。明褐色を呈する。幅20~30mm。	CM'																																																																																																																																																																																							
			Cg IVg	bg γ	42.91~43.00m : 0 硬質な砂状を呈する。原岩組織と割れ目は消滅する。白色粘土を脈状に伴う。																					CM'																																																																																																																																																																			
					43.00~43.17m : CL 割れ目沿いに砂状化する。白色粘土を脈状に伴う。																																									CM'																																																																																																																																															
					43.17~43.66m : 割れ目「D」を主体とするが、一部に径さ「B」の堅硬な柱状コアも含む。割れ目の一部に幅1~2mmの粘土、砂の薄層を挟むが、挟まない割れ目が主体。面は薄く褐色化するものが多いが、劣化はない。一部で砂着割れ目を含むが、密着度は高くハンマーの強打でも分離しないものが主体。																																																													CM'																																																																																																																											

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(標準貫入)試験				原位置試験 (孔内水圧感)	室内試験	掘進速度 (cm/時)	掘進月日	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアーチューブ/ビット	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)															
																(N 値 ~ 深度) 図	N 値	(N)	値																									
											45.00~45.40m: 80~90° の高角度割れ目が連続。交差する割れ目の一部は高角度割れ目で止められる。高角度割れ目は、凹凸が顕著であるが、面のかみ合わせが良い。細粒部は認められない。同位の岩割=原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。 45.41~45.50m: 割れ目が交差し、一部径5~20mmに片状化するが、砂や粘土は挟まない。	7 7 [B1]																																
46											45.66~46.14m: CL 風化で割れ目沿いに細片化~砂状化が拡大する。45.96m以深は硬さ「C」の硬質岩層も多く含む。少量の軟質な白色粘土も脈状に挟む。																																	
47											46.14~47.59m: CM 堅硬であるが、長石の多くは白濁化する。割れ目に挟在物は殆ど分布しない。 47.00~47.23m: 割れ目沿いや岩芯の一部が強くマンガン鉱染を受ける。 47.24~47.29m: 上端35°、下端23°の割れ目とほぼ同方向に砂~径5~10mmに片状化する。岩片自身は硬さ「C」「J」と硬い。	1 1 [B1]																																
48											47.58~47.77m: CL 35~45°の割れ目が多く、割れ目沿いに幅2~5mm程度で砂状~細片状化する。 47.77~48.61m: CM 径中で長石の白濁化も少ないが、一部で密着度の低い割れ目を含む。割れ目に挟在物は分布しない。	1 1 [1]																																
49											48.61~56.69m: CL 硬さ「C」と「D」が交互に分布する。密着度の低い割れ目や粘着割れ目を多く含む。割れ目沿いに幅10~30mm程度で風化による砂状化が進む部分もある。 48.61~50.56m: 硬さ「C」主体で、49.49m~40°の幅15mm、50.18m~35°の幅30mmで砂状~細片状化が進む。灰白~褐色粘土も伴う。 48.78~48.79m: 上端38°、下端50°の割れ目に幅10mmの砂状~細片状部を挟む。明褐色粘土を伴う。	6 6 [D1]																																

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状 図	岩種 区分	色調	硬軟 状態	コア 形状	割れ 目の 状態	風化 程度	記 事	コア採取率 (%) 最大コア長 R Q D L [%]	岩級 区分	孔内水位 (m) 測定月日	(標準貫入)試験 (N値~深度) 図					原位置試験 (孔内水圧感)	室内 試験	掘進 月日	掘進 速度 (cm/時)	孔径 (mm) /孔壁 保護	コア チューブ /ビット	給 圧 (kN· rpm MPa)	回 転 数 (rpm)	送 水 圧 (MPa)	送 水 量 (L/分)	排 水 量 (L/分)															
														(N値)	(N値)	(N値)	(N値)	(N値)																										
		51	+	花崗斑岩	明褐色	Cg	Dg	δ	3	50.00~50.42m : 70°前後の風化した微細な割れ目が数条波打ちながら連続する。一部はハンマーの強打で分類する。	4 (0)																																	
		52	+	花崗斑岩	明褐色	Cg	Dg	γ	2	51.16m, 51.45mの35°, 49°の割れ目に幅1~2mmの褐色粘土を挟む。51.16~52.00m : 硬さ「C」主体。51.35~51.64m : 割れ目が交差し、交差部では砂状部が拡大している。また、白色粘土も少量伴う。	4 (0)																																	
		53	+	花崗斑岩	明褐色	Cg	Dg	δ	3	52.00~52.32m : 径10~20mmの硬さ「D」「C」の岩片と岩片間の極長な砂状部からなる。52.32~52.75m : 白濁化した長石が多いが、硬さ「C」と硬質。一部で硬さ「B」も含む。一部では密着度の低い割れ目も含む。52.75~53.10m : 岩片自身も硬さ「D」と軟質化する。一部で硬さ「C」が残留する。	6 (0)																																	
		54	+	花崗斑岩	明褐色	Cg	Dg	γ	2	53.10~55.82m : 密着度の低い割れ目が多く、一部で開口化する。割れ目の一部は砂状化し、白色粘土を伴うことが多い。褐色を帯びる。53.40~53.60m : 硬さ「B」に近い。割れ目に挟在物は殆んど分布しない。53.79~53.81m : 上端23°, 下端39°の割れ目の間が砂状~細片状を呈する。53.85~54.31m : 挟在物を伴う割れ目は少ない。54.35~54.58m : 割れ目扱いや岩芯の一部が弱くマンガン鑑染を受け、黒褐色化する。	6 (0)																																	

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記号	コア採取率 (%)	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入試験 (N値~深度) 図		原位置試験 (孔内水深取巻)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ/ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)																									
															N	値																																				
		56		花崗斑岩	灰色	軟	Cg	Vg	δ	3	55.00~55.55m: 割れ目沿いに砂状化が進み、砂や粘土を挟むことが多い。55.00m: 25°で幅1mmの淡黄色粘土を挟む。粘土直下に幅10mmの砂状部を伴う。	0	CL'		0	10																																				
	57	Eg																											Vg	δ	3	55.82~56.69m: 挟在物を伴わない割れ目が多い。 56.00~56.30m: 73~80°で湾曲して延びる高角度割れ目を境として、下半分層は礫状~岩片状を呈する。	0	D'																		
	58																																																			
	59	Eg	Vg	δ	3	●58.89~58.92m: 破砕部 58.89~58.94m: 粘土混じり岩片状部 (Hj) 上端20°で直線的に、下端25°で被って連続。20~30°とこれに直交~斜交する割れ目で径3~5mmに細片化し、硬さ「E」主体の岩片と岩片間の一部に淡黄~灰白色硬質粘土を挟む。褐色を呈する。幅40mm。 58.94~58.96m: 粘土混じり岩片状部 (Hj) 傾斜25°で上下端ともに被って連続。径2~4mmの石英粒、径3mmの硬さ「D」岩片からなる。やや硬質。にぶい黄褐色を呈する。幅15mm。 58.96~58.89m: 礫混じり粘土状部 (Hc-2) 傾斜25°で上端は被って連続。下端は直線的に連続。径2~3mmの石英粒、径15mmの石英を5~10%含む。軟質。オレンジ色帯びる灰白色を呈する。幅15mm。 58.89~59.69m: CL 59.50m以深は粘土を挟むことが多い。 ●59.69~59.75m: 破砕部 59.69m: 粘土状部 (Hc-1) 傾斜52°で上下端ともに直線的に連続。石英粒、岩片はほとんど含まない。軟質。黄褐色を呈する。幅1mm。 59.69~59.75m: 砂混じり岩片状部 (Hj) 上端52°、下端37°とともに直線的に連続。径5~20mmの硬さ「D」「E」岩片と岩片間の砂状部からなる。粘土は分布しない。にぶい褐色を呈する。幅40~60mm。 59.75~60.00m: CL 挟在物を伴う割れ目は少ない。	0	CL'																																												

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化質	記事	コア採取率 → (%) 最大コア長 ← (m) R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 / 測定月日 (N) 値	(標準貫入) 試験 (N 値 ~ 深度) 図		原位置試験 (孔内水圧 含む)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm / 時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN · MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L / 分)	排水量 (L / 分)																														
														0	50																																									
		61		花崗斑岩	灰褐色					60.00~61.40m : CM 密着度の低い割れ目やゆるぎ割れ目も多く含む。挟在物を伴う割れ目は少ない。 各割れ目と岩芯の一部は弱くマンガン鉱染を受ける。		CM'																																												
		62								Cg IVg bg γ 2																				61.10~61.23m : 上端30° 下端33° の割れ目の上下端は被打っている。一部砂状化する。マンガン鉱染が見られる。																										
										Dg Vg cg δ 3																				61.40~61.67m : CL 割れ目沿いに砂状化が進む。 61.47~61.51m : マンガン鉱染により黒褐色化する。																										
										Cg IVg bg γ 2																				61.67~62.23m : CM 岩片の一部は堅硬な硬さ「B」も含む。割れ目に挟在物はないが、弱くマンガン鉱染を受ける。劣化は伴わない。																										
										Dg Vg δ 3																				62.23~64.52m : CL 硬さ「D」と「C」が繰り返して分布する。全体に割れ目に砂や粘土層などの挟在物を挟むことが多い。硬さ「D」の区間は割れ目沿いに砂状化が拡大する部分もある。																										
		63								Cg IVg cg γ 2																				62.82~62.93m : 径5~20mmの硬さ「D」の岩片と岩片間は砂状化し、砂状化を呈する。幅1~2mmの軟質白色粘土層も伴う。																										
																														63.03m : 30° の割れ目沿いに幅約10mmの淡褐色粘土、幅1~2mmの淡黄色粘土を挟む。上端側は幅5~15mmでマンガン鉱染を受ける。 63.04~64.17m : 硬さ「C」区間で、硬さ「B」も多く含む。																										
		64								Dg Vg δ 3																				63.60~63.70m : コアチューブ引上げ時の擾乱により角礫状化している。																										
										Dg Vg δ 3																				64.17~64.52m : 割れ目沿いに砂状化することが多く、割れ目が不明瞭になり、消滅しかかっていることも多い。原岩組織は明確に残留する。																										
										Cg IVg bg γ 2																				64.52~66.39m : CM 65.6m以深は硬さ「B」で堅硬となる。全体として割れ目に挟在物は少ない。一部の割れ目沿いでマンガン鉱染を強く受け、黒褐色化するが、劣化は伴わない。 64.66m : 63° の割れ目に幅1~2mmの灰白色粘土を挟む。																										
				64.78~64.84m : 上下端45° の割れ目間及び両端が暗褐色を呈する。マンガン鉱染が見られる。一部砂状化する。																																																				

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記	コア採取率 → (%) 最大コア長 ← cm R Q D └ [%]	岩級区分	孔内水位 / 測定月日 (N) 値	(標準貫入) 試験 (N 値 ~ 深度) 図					原位置試験 (孔内水圧 含む)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm / 時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN · MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L / 分)	排水量 (L / 分)																																	
															0	10	20	30	40												50																																
		66		花崗斑岩	にみい橙	Cg	IVg	bg	γ		<p>65.19m : 38° の割れ目沿いに幅10mmで軟質化が進む。薄い砂状部を挟む。</p> <p>65.34m : 35° の割れ目沿いに幅25mmの硬質な結晶部を伴う。凝結石による淡緑灰色化及びマンガンによる黒褐色化するが、劣化は伴わない。</p> <p>65.59m : 35° の割れ目沿いに幅20mmが砂状化～径5mmの細片化する。</p> <p>65.61m : 35° の割れ目を境として以下は堅硬となる。</p> <p>66.09m : 55° の割れ目沿いに砂状部を挟む。マンガン鑑染も伴う。</p>	GM'																																																			
		67																																	にみい橙	Cg	2		<p>66.37～66.40m : 割れ目沿いに幅30～40mmが淡緑灰色の凝結石化する。砂～粘土化部など劣化は伴わない。</p> <p>66.39～68.06m : CL</p> <p>割れ目には砂を主体とした挟在物が多い。一部で割れ目沿いの砂状化が拡大する部分もある。節理部の低い褐色化した風化割れ目も多く、ハンマーの軽打で分離・細片化することが多い。</p> <p>66.80m : 51° の割れ目に幅1～2mmの褐色粘土を挟む。</p> <p>66.92m : 63° の割れ目に幅2～3mmの灰白色粘土を挟む。</p> <p>67.12m : 55° の割れ目沿いに幅5mmで白色シルト状部を挟む。割れ目面は褐色化する。</p> <p>67.30～67.70m : 60～90° の高角度割れ目に囲まれて径10mm前後で岩片化する。岩片間の一部は幅2～3mmで砂状化する。</p>	CL'																							
		68																																																												明褐色	Vg
		69																																	にみい橙	Cg	3	<p>68.69m : 30° の割れ目沿いに幅15mmで淡緑灰色を呈する硬質な凝結石化が見られる。上層部に石英も伴う。</p> <p>68.93～70.10m : CL</p> <p>30° 前後の割れ目が主体で割れ目沿いに砂状化の砂を挟むことが多い。一部は幅10mm程度に砂状化が拡大している。幅1mm程度の軟質白色粘土層も伴う。</p> <p>砂状化が進む部分では硬さ「D」主体である。</p> <p>69.22m : 45° の割れ目に幅1～2mmの褐色粘土を挟む。</p> <p>69.70m以深は一部の割れ目と岩芯に弱くマンガン鑑染を受ける。</p>	CL'																								
																																																														明褐色	

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記号	備考	コア採取率 (%)	最大コア長 (m)	岩級区分	孔内水位(測定月日)	標準貫入試験 (N値~深度)図						室内試験 (孔内水圧)	掘進 月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm)	コアチューブ /ビット	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)							
																	N	0	10	20	30	40										50						
71							Eg	γ	2			70.10~71.22m : D 風化と変質で著しく軟化するが、原岩組織と割れ目は残留する。所々に硬さ「D」の岩片が残留し、71.30m以深は岩片量が多くなる。 70.17~70.20m : 25°で波打ってマンガンが脈状に分布し、黒色を呈する。下部層は幅10mmで硬化した凝灰石化部を伴う。 70.20~71.30m : 粘土化ないし砂状化部主体。幅1mmの白色粘土脈が脈状に分布する部分もある。	0	50	100																							
72							Eg	cg				71.30m以深は硬さ「D」の岩片と岩片間の粘土化~砂状化部からなる。部分的に径1~2mmの石英がマンガン鉱索により黒褐色化する。 71.72~72.65m : Cl 径10~20mmの硬さ「D」の岩片からなり、一部の岩片間では粘土化~砂状化部を伴う。全体に密着度の低い割れ目やゆるい割れ目が多く、ハンマーの打撃で分離・細片化する。 72.12~72.17m : 30°の割れ目沿いに褐色化し、砂状化も拡大する。	0	50	100																							
73							Eg	dg		δ	3	72.65~73.39m : D 72.93~73.11m : 強変質で原岩組織と割れ目は消滅し、細砂礫状を呈する。上記区間以外は原岩組織と割れ目の一部は残留する。また、硬さ「D」の岩片も一部で残留する。 73.16~73.19m : 20°の割れ目沿いに幅10~15mmでマンガンが脈状に分布する。 73.38~76.23m : Cl 一部で硬さ「C」の岩片も含むが、全体的には軟質化の進んだ硬さ「D」の岩片主体。 密着度の低い割れ目やゆるい割れ目が幅10mm前後で密に分布する。 73.38~73.58m : 硬さ「C」で一部の割れ目に軟質な幅1~3mmの灰白色粘土脈を挟む。	0	50	100																							
74							Eg	cg				74.04m : 25°の割れ目沿いに幅約20mmで軟質化が進む。 74.29~74.49m : 20~30°の割れ目沿いに褐色化とマンガン鉱索を伴う。細かい密着度の低い割れ目も密集する。 74.72~74.84m : 硬さ「C」主体であるが、密着度の低い割れ目も多い。 74.90m : 33°の割れ目沿いに幅10mm程度が砂状化する。	0	50	100																							

標尺 (m)	標高 (m)	深 度 (m)	柱状 図	岩 種 区 分	色 調	硬 軟 状 態	コ ア 形 状	割 れ 目 の 状 態	風 化 質	記 事	コ ア 採 取 率 (%) ← 最大コア長 ← R Q C D ← [%]	岩 級 区 分	(標準貫入) 試験 N 値 ~ 深 度		孔内水位 / 測定月日	原位置試験 (孔内水深範囲)	室内試験	掘進 月 日	掘進 速 度 (cm / 時)	孔 径 (mm) / 孔 壁 保 護	コ ア チ ュ ー プ / ビ ッ ト	給 圧 (kN ・ MPa)	回 転 数 (rpm)	送 水 圧 (MPa)	送 水 量 (L / 分)	排 水 量 (L / 分)														
													N	値																										
76				花崗斑岩	灰緑	Dg	Vs	og		75.05~75.56m: 割れ目の一部に幅1~2mmの白色軟質粘土を脈状に挟む。 75.46m: 0° で幅3~5mmの珪質部が斜交する割れ目を止めて連続する。粘土化などの劣化は伴わない。珪質部の上端・下端の割れ目に縮れ部は認められない。珪質部周辺の岩質には原岩組織が認められ、珪質部と系統的な割れ目も存在しない。 75.80~75.87m: コアチューブ引上げ時の擾乱により径10mm前後の破砕コアを呈する。 76.11~76.23m: 10~20° の低角度割れ目が多い。一部で幅0.5mmの灰白色粘土を挟む。 76.23~76.59m: 0 76.41m以深は径3~5mmに細片化する。粘土化も伴う。 76.41m以深は大半の割れ目が消滅する。割れ目跡に沿ってマンガンが斑状に分布する。 ●76.59~76.89m: 破砕部 76.59m: 粘土状部 (Hc-1) 傾斜47° で上下端ともに直線的に連続。径1mmの石英粒をこわすか (5%以下) 含む。液質。明黄褐色を呈する。幅1mm。 76.59~76.65m: 粘土質硬状部 (Hc) 上端47° で、下端55° でともに直線的に連続。マンガン鑑染で黒色化した径1~2mmの石英粒。径3~10mmの粘土化~硬さ[D] 岩片を計20~30%含む。軟質。上端側のHc-1の粘土とほぼ平行な細かい割れ目が4条分布する。灰白~にぶい褐色を呈する。幅40~50mm。 76.65~76.89m: 粘土湿り岩片状部 (Hj) 上端55° で、下端37° でともに直線的に連続。径3~10mmの硬さ[D] ~粘土化した岩片と岩片間の粘土化部からなる。76.70mと76.78mに破砕部 上端側のHc-1の粘土と平行方向に各々55°、33° のせん断面が分布する。一部でマンガン鑑染を伴う。にぶい粉~灰白色を呈する。 76.89~76.15m: 0 硬さ[D] の岩片主体であるが、部分的に硬さ[C] も含む。割れ目沿いに粘土化と砂状化が進む。特に上位の破砕部直下の76.89~77.00mで粘土化が進む。割れ目はシャープで明確なものも多いが、一部で消滅しかかっているものもある。 70~80° の高角度系を主体に、密着度が低い割れ目も多い。 77.58~77.65m: 径10mm前後の大型の石英結晶が点在。 77.71~77.77m: 径5~10mmで細片状~硬質砂状を呈する。 77.79~77.85m: 硬さ[C] と硬化する。 78.05m以深は白色粘土細脈の分布が多くなる。 79.15~85.03m: 0 主として変質による粘土化が進み、若しくは硬化している。一部で径5~20mm程度の硬さ[D] の岩片が残留する。全体に原岩組織と割れ目の一部は残留する。割れ目は10~30° の低角度系が主体である。 79.37~79.49m: 上端42°、下端39° の割れ目の間は、岩片状~一部砂状を呈する。																														
77					花崗斑岩	混みぐ稽	Eg	Vs	dg																															
78						花崗斑岩		Dg																																
79							明褐灰		Vs	og																														
										Eg																														

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コアラ形状	割れ目の状態	風化質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入試験		原位置試験 (孔内水圧計)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアラチップ/ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)						
														(N値~深度) 図	(N) 値																	
					明褐灰					80.24~80.31m: 幅1mm, 長さ10~20mmの細脈状にマンガンが密集する。 80.39m以下は硬さ「E」「D」(一部「C」)の岩片と、岩片間の粘土化部からなる。 80.76~81.69m: 割れ目や岩芯の一部がマンガン鉱染を受ける。 81.70~82.40m: 岩片間の基質の一部で風化・褐色化が進む。 81.90~84.40m: 表面がマンガンで黒色化した径1~2mmの石英粒が点在する。 83.30~83.74m: 硬さ「C」の硬質岩片が多く残留する。 83.30~83.50m: 岩片間の砂状~粘土化部が風化で褐色化する。 84.06~84.55m: 10~20°の割れ目沿いに風化で褐色化する。硬さ「D」の岩片が主体。 84.55~84.89m: 砂状化が拡大する。軟質粘土も伴う。岩片部分を除き、原岩組織は消滅する。 84.89~85.61m: CL 一部に硬さ「C」の岩片も含まれるが、割れ目沿いに砂状化する。																						
					明黄褐		Vg	cg																								
				花崗斑岩			Eg		δ	3																						
					明褐灰																											
					明黄褐																											
					灰褐																											

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化質	記事	コア採取率 ← (%) 最大コア長 R Q D ← cm L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(標準貫入) 試験		原位置試験 (孔内水圧計)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)			
														(N 値)	(値)														
				花崗斑岩	にこい褐	Dg				85.28~85.32m: 結晶石化し、淡緑灰色を呈する。径0.5mm以下の微細なセリサイト、黄鉄鉱を伴う。 85.36~85.60m: 高角度割れ目沿いの砂状化が進む。 85.61~91.35m: D 硬さ「D」「C」の岩片と岩片間の粘土化~砂状化部からなり、全体として軟質化が著しい。 85.70m: 15°の割れ目沿いが褐色を呈し、マンガン鉱染が見られる。																			
				花崗斑岩	褐灰	Vg	cg	δ	3	86.50~86.78m: 40~50°の割れ目沿いに硬さ「C」「D」の岩片が残留する。岩片中には細かい割れ目が多く、ハンマーの打撃で細片化するものが多い。																			
				花崗斑岩	コア欠如					87.18~91.35m: 強風化による砂状化が拡大し、残留する硬さ「C」「D」の岩片とともに砂礫状を呈する。87.18~87.52mの基質部はスライムである。																			
				花崗斑岩	明褐灰	Vg	dg			88.18~89.05m: 残留する岩片量が多くなり、割れ目も認識できるようになる。																			
				花崗斑岩		Vg	cg	δ	3	89.05~90.14m: 岩片のみ採取され、基質の砂状~粘土状部は掘進時に流失したものと推定される。																			

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記 事	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm) R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 (N 値 ~ 深度) 試験 (N 値) 図					原位置試験 (孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給 圧 (kN・MPa)	回 転 数 (rpm)	送 水 圧 (MPa)	送 水 量 (L/分)	排 水 量 (L/分)									
															0	10	20	30	40												50								
			花崗斑岩	灰褐	Cg			γ			95.50~95.71m: 割れ目から分離し、径10mm前後に細片化する。	2 (0)																											
96																																							
				花崗斑岩	明褐灰	Vg			3			95.94~98.05m: 径さ「D」の岩片状コア主体。所々に径さ「C」も含む。95.96m: 60°の割れ目に幅1mmの灰白色軟質粘土を挟む。上端部の幅約5mmにマンガン染色部を伴う。	2 (0)																										
97																																							
					花崗斑岩	にみい橙	Dg			6			96.52~97.60m: 30~40°と60~70°の割れ目が交差し前者が後者に止められる。60~70°の割れ目に細粒部は認められない。割れ目周辺の岩盤に原岩組織が認められる。	2 (0)																									
97																																							
						花崗斑岩	にみい橙	og			3			97.07m: 15°で幅2~3mmの石英脈を挟む。劣化は伴わず密着する。	2 (0)																								
97																																							
							花崗斑岩	にみい橙	Cg	IVg					97.58~97.69m: マンガン染色が進み黒褐色化する。97.69~97.70m: 径さ「C」の岩片中に径約1~2mmの白色粘土が脈状~径2~3mmの斑状で分布する。	6 (0)																							
98																																							
			花崗斑岩					灰褐	Cg	IVg					98.02m: 30°で幅2~5mmの石英脈を挟む。一部で褐色割れ目化する。98.05~98.92m: 径さ「C」主体。割れ目の面は褐色化するものが多い。割れ目沿いに軟質化する部分もある。98.20m: 50°の割れ目に幅3~5mmの褐色粘土を挟む。	7 (0)																							
98																																							
				花崗斑岩				灰褐	Dg	Vg		γ	2		98.92~99.50m: 径さ「D」主体。全体に軟質化するが風化、変質は弱い。	2 (0)																							
99																																							
					花崗斑岩			褐灰	Eg	Vg	dg	δ	3		●99.50~99.60m: 破砕部 99.50~99.56m: 粘土部より岩片状部 (Hj)	2 (0)																							
99																																							
						花崗斑岩		にみい橙	Dg	Vg	og	γ	2		上端43°で直線的に、下端38°で波打って連続。上端とほぼ平行な数本の割れ目と、これに直交~60°斜交する割れ目で径5~10mmの径さ「E」の岩片に細片化する。岩片間に径1~3mmの白色軟質粘土が脈状に分布する。一部にマンガン染色を伴う。明黄褐色を呈する。幅45mm。	2 (0)																							
99																																							
							花崗斑岩	にみい橙	Dg	Vg	og	γ	2		99.53mには上端と平行で直線的な幅1mmの灰白色粘土を挟む。 99.56~99.57m: 塊凝じり岩片状部 (Hc-2) 傾斜38°で上下端とも波打って連続。径1~3mmの一部マンガン染色で黒化した石英粒を10%程度含み、フィルム状の細粒部が挟み込んでいる。やや硬質。灰白色を呈する。幅5~10mm。 99.57~99.68m: 砂凝じり岩片状部 (Hj) 上端38°で波打って、下端37°で直線的に連続。上位のHc-2の粘土と平行な数本の割れ目とこれに直交~60°斜交する割れ目が多く、径5~20mmに岩片化する。岩片間には粘土は殆んど分布せず。砂状部を挟む。マンガン染色のため黒化し、褐色色を呈する。幅85mm。 99.68~100.50m: CL 径さ「D」主体。	2 (0)																							
99																																							

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化質	記 事	コア採取率 (%) 最大コア長 R Q D [%]	岩級区分	孔内水位 / 測定月日	(標準貫入) 試験		原位置試験 (孔内水圧計)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給 圧 (kN・MPa)	回 転 数 (rpm)	送 水 圧 (MPa)	送 水 量 (L/分)	排 水 量 (L/分)				
														(N 値 ~ 深度) 図	(N 値)															
					にぶい橙	Dg Vg og				100.00~101.00m: 密着度が低い割れ目~ゆる割れ目を多く含む。開口割れ目化するものもある。		CL'																		
				灰褐																										
101																														
										101.45~101.70m: 幅1~2mmの白色~黄色粘土が脈状に多く分布する。																				
										101.70~102.56m: CL 硬さ「C」主体で、割れ目沿いに砂や粘土を挟む。		CL'																		
102				花崗斑岩																										
										102.56~104.28m: CM 硬さ「B」で堅硬である。挟入物を伴う割れ目は少ない。短柱状~柱状コアには幅1~2mmの白色筋状の砂着割れ目が多く分布するが、ハンマーの強打で分離しない。一部で幅2~3mmで砂状~細片状化部を挟むものもある。																				
103										103.24m, 103.48mのいずれも65°の割れ目は交差する割れ目を止め、前者で幅2~3mm、後者で幅2mm程度の砂を挟む。マンガンも伴う。65°の割れ目沿いの砂は局所的で、割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。																				
				褐灰																										
104										103.94~104.00m: 風化で淡褐色化し軟質化する。																				
										104.28~105.80m: CM 堅硬で塊状。一部で白い筋状の砂着割れ目が分布するが、密着度が高く、ハンマーの強打でも分離しない。104.28m, 104.61mに70°の割れ目が分布し、前者は幅2mmの砂を挟み、マンガンも伴う。																				

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化質	変質	記 事	コア採取率 (%) 最大コア長 R Q D [%]	岩級区分	孔内水位 / 測定月日	標準貫入試験		原位置試験 (孔内水圧計)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給 圧 (kN・MPa)	回 転 数 (rpm)	送 水 圧 (MPa)	送 水 量 (L/分)	排 水 量 (L/分)							
															(N 値)	(値)																		
											<p>110.11~110.95m: 50~60° とこれに直交~斜交する10~30° の割れ目やゆ着割れ目が多い。ゆ着割れ目は密着度が高い。前者の割れ目は後者の割れ目の一部を止めており、一部は後者の割れ目が前者の割れ目と横断している。50~60° の割れ目には細粒部は認められない。割れ目周辺の岩盤に原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。</p>																							
111							IV g				<p>111.14m: 76° の割れ目に幅1~2mmの緑泥石粘土~シルトを挟む。径0.1mmの微小なゼリサイトも点在する。 111.31~111.34m: 割れ目沿いに薄く風化・褐色化する。</p>		GM'																					
112							Bg	bg β			<p>112.00~112.27m: 70~80° とこれに直交する20~30° のゆ着割れ目が約10mm間隔で密集するが、密着度が高くハンマーの強打でも分離・細片化しない。 112.27~113.27m: GM 堅硬であるが、上下位に比べ割れ目がやや多くなる。ゆ着割れ目も多く、112.27~112.32mを除き、密着度は高い。割れ目には挟み物は分布せず。面も未風化・新鮮なものが主体である。一部の割れ目で緑泥石が幅1mm程度で砂状~シルト状を呈する。</p>																							
113											<p>113.27~114.41m: CH 堅硬。塊状。割れ目は少ないが、70~80° の高角度系が主体。ゆ着割れ目も同系統で密着度が高い。</p>																							
114							III g				<p>114.24m: 80° のゆ着割れ目沿いに径2~3mmの暗緑灰色の緑泥石が点在する。 114.40m以深の割れ目の一部は薄く淡褐色化する。軟質化、粘土化などの変化は伴わない。 114.41~115.12m: GM 70~80° の割れ目が多く、114.89~115.12m間は上約5mm、下約30mmで砂状化~片状化する。</p>																							
							IV g																											
							Cg	cg γ																										

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記	コア採取率 (%) 最大コア長 R Q D cm L [%]	岩級区分	孔内水位 / 測定月日	(標準貫入) 試験		原位置試験 (孔内水圧計)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)											
															(N 値)	(値)																						
											●115.00~115.12m: 破砕部 粘土混じり礫状部 (Hj) 上端80°, 下端80° でいずれも直線的に連続。上下端とも緑灰色のフィルム状粘土を挟む。径10~30mm程度の岩片主体で岩片間に淡黄色粘土を伴う。岩片には定向配列が見られる場合がある。にぶい橙色を呈する。幅30mm。 115.12~116.80m: CM 堅硬で、密着度の高い砂着割れ目が多いが、ハンマーの強打でも分離・細片化しない。 115.90~116.10m: 径5mm前後の橙色のかり長石が多く分布する。 116.35m: 70~80° で湾曲する割れ目と40° の割れ目が交差する。後者は前者で止められる。両割れ目の一部に幅1mm、交差部で幅5mmの緑泥石砂状~シルト~粘土を挟む。70~80° の割れ目沿いの細粒部は局所的で、割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められる。系統的な割れ目は存在しない。 116.80~117.32m: CM 一部に硬さ「C」を含むが硬な硬さ「B」が主体。割れ目が多くなるが、砂着割れ目は密着度が高く、ハンマーの強打でも分離しない。長石は白濁化するものが多い。挟在物は分布しない。 117.32~117.39m: CL 75° の割れ目沿いに幅20~25mmが風化で軟弱化する。 117.39~118.47m: CH 堅硬。一部で割れ目が多いが、コア長10cm以上の棒状コア主体。白色筋状の砂着割れ目も多いが、大半は密着度が高く、ハンマーの強打でも分離しない。径2~3mmの暗緑灰色の緑泥石が点在する。割れ目に挟在物は分布しない。 117.65~118.40m: 橙色のかり長石が多く、全体ににぶい橙色を呈する。 118.20m・75°、118.46m・76° の割れ目が見られ、幅1mm程度の緑灰色シルトを挟む。 118.47~119.00m: CM 上位に比べ割れ目が多くなるが、岩片は堅硬(硬さ「B」)で、挟在物は分布しない。長石は白濁化することが多い。 119.00~119.11m: CL 風化と変質が進み、全体が軟弱化する。 ●119.11~119.25m: 破砕部 119.11~119.16m: 粘土混じり岩片状部 (Hj) 上端50° で直線的、下端60° で波打って連続。径5~10mmの角礫状岩片からなり、岩片間は幅1mm以下で白色、幅1~3mmで緑灰色のいずれも軟弱粘土を挟む。にぶい橙~暗緑灰色を呈する。幅30mm。 119.16~119.19m: 粘土状部 (Hc-1) 傾斜60° で上端は波打ち、下端は直線的に連続。径1mmの石英まわすかを含む。軟弱。緑灰色を呈する。幅7~10mm。 119.18~119.25m: 粘土混じり岩片状部 (Hj) 上端60° で直線的に、下端43° で波打って連続。上位のHc-1の粘土とほぼ平行~これと斜交する割れ目で径2~5mmに細片化する。岩片間の一部は幅1mmの緑灰色粘土細脈が多く分布する。暗緑灰色を呈する。幅40mm。 119.25~120.10m: CL 風化で全体が軟弱化するが、硬さ「C」の硬質岩片も一部に残留する。割れ目の一部に幅2mmの緑灰色の緑泥石粘土を挟む。120.02~120.09mは割れ目沿いに砂状化が進む。																											
116				褐灰		Dg	Vg	cg	γ	3																												
117				花崗斑岩																																		
118				にぶい橙		Dg	Vg	cg	δ	2																												
119				褐灰		Dg	Vg	cg	γ	3																												
		77.18	119.14			Dg	Vg	cg	δ	3																												
		77.30	119.30			Dg	Vg	cg	δ	3																												

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化質	記事	コア採取率 ← (%) 最大コア長 ← (m) R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(標準貫入) 試験		原位置試験 (孔内水圧計)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm / 時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ / ビット	給圧 (kN · MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L / 分)	排水量 (L / 分)			
														(N 値)	(値)														
				花崗斑岩	褐灰	Bg	III ε	bg	β	2																			
		121								120.00~120.10m : 60° で幅10~15mmの極細石化で軟質化する。 120.10~125.90m : CH 堅硬。塊状。割れ目に挟存物は分布せず。面もほぼ未風化・新鮮である。長石の白濁化は殆んど認められない。																			
		122								121.60m : 砂着割れ目が開口割れ目化する。																			
		123								122.36m : 65° の割れ目の一部に黄鉄鉱が晶出する。 122.61m : 60° の割れ目に幅2mmの褐色砂を挟む。																			
		124								123.35~125.06m : 80~90° の割れ目が連続する。 123.63~123.67m : 割れ目沿いに片状化するが、岩片は硬質で、砂や粘土化など劣化は伴わない。																			

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化質	変質	記事	コア採取率 → (%) 最大コア長 ← → cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(標準貫入) 試験 (N 値 ~ 深度) 図		原位置試験 (孔内水圧 基準)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)					
															N 値	値															
		126	花崗斑岩		褐灰	Bg	bg	β		2	125.00m以深はゆる割れ目は殆んど分布しない。		GM'		0	10															
	127	127.15~127.50m : GM 堅硬であるが、ゆる割れ目から開口割れ目化したものが多い。割れ目に挟む物は挟まず。ほぼ全風化で新鮮である。ほぼ全風化にわたり、60~90°のゆる割れ目沿いに割れ目化し、一部はその周辺が片状化する。																													
	128	128.05~128.79m : GM 堅硬。128.05~129.00mにゆる割れ目が開口割れ目化した80~90°の割れ目が波打ちながら連続するが、一部を除き片状化は認められない。																													
	129	129.47~129.84m : CL 密着度の低い潜在割れ目が多く分布する。挟む物は殆んど分布しない。																													
		129.84~129.91m : 破砕部 (Hc-2) 傾斜70°で上端は直線的に、下端は波打って断続的。径1~3mmの石英粒、径2~3mmの岩片を10~20%含む。軟質。緑灰色を呈する。幅2~5mm、一方、上端には暗緑灰色の幅0.5mmのフィルム状粘土を挟む。 129.85~129.91m : 粘土質岩片状部 (Hj) 上端70°で波打って、下端60~70°で少し滑曲して連続。径2~5mmに細岩片化し、岩片間は粘土~砂状化する。粘土量が多い。オリブ灰色を帯びた灰白色を呈する。幅25~35mm。 129.91~130.57m : CL 岩片は堅硬であるが、高角度割れ目やゆる割れ目が1~2cm間隔で分布し、片状化する。割れ目沿いで薄く砂状化するものがある。																													

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 R Q D [%]	岩級区分	孔内水位(測定月日)	(標準貫入)試験 (N値~深度)図		原位置試験(孔内水圧)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ/ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)							
															N 値	() 図																		
					緑灰										0																			
					明緑灰						140.13m: 65° の割れ目沿いの一部が細片化するが、軟質化など変化はない。 140.39~140.61m: CM 70° の割れ目沿いに一部片状化する。砂や粘土は挟まない。 140.61~141.97m: CH 堅硬・塊状。一部でゆ着割れ目が多いが、密着度が高く、周囲と同化し、ハンマーの強打でも分離・細片化しない。																							
					花崗斑岩						141.40~142.00m: 径20mm前後の樹根様状に緑泥石化した淡緑灰色部が分布する。 141.97~147.00m: CM 割れ目はやや多いが、岩片は堅硬。白色筋状のゆ着割れ目が多いが、密着度が高い。一部で開口割れ目化する。 142.32~142.43m: 50° 程度の割れ目が交差し、径20~50mm程度に岩片化するが、砂や粘土は挟まない。 142.70~142.76m: 緑泥石により淡緑灰色を呈する。																							
					緑灰						143.48~144.50m: 径3~5mmの橙色のかり長石の珪晶が上下よりも多く晶出する。 143.80~144.00m: 割れ目間隔20~70mmで45° のゆ着割れ目沿いに分離し開口割れ目化する。 144.08~145.44m: 40~60° のゆ着割れ目が密集する。多くが開口化し易い。																							
					灰褐																													

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化質	変質	記 事	コア採取率 ← (%) 最大コア長 ← cm R Q D └ [%]	岩級区分	孔内水位(測定期日)	(標準貫入) 試験 (N 値 ~ 深度) 図		原位置試験 (孔内水圧)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コァチューブ / ビット	給 圧 (kN・MPa)	回 転 数 (rpm)	送 水 圧 (MPa)	送 水 量 (L/分)	排 水 量 (L/分)							
															N (値)	図																		
			花崗斑岩		灰褐						145.37m: 50° 割れ目沿いに幅15mmが 径2~10mmに細片化するが、岩片は硬 質である。砂や粘土は挟まない。 145.45m付近、145.90m付近は、60~8 0° の割れ目が発達する。		CM'	0	10	20	30	40	50															
146		145.88m: 70° のゆ着割れ目沿いに幅 約10mmで緑泥石により緑灰色を呈す る。																																
147		146.56~147.09m: 60~70° のゆ着割 れ目沿いに分離し開口割れ目化する。 各割れ目面はほぼ未風化・新鮮で挟 在物は分布しない。																																
148		147.08~150.59m: CH 堅硬・塊状。開口割れ目は殆んどが ゆ着割れ目が開口したものである。 残留するゆ着割れ目は周囲と同化し、 密着度が高く、ハンマーの強打でも 分離しない。各割れ目面に挟在物は 殆んど分布せず、未風化で新鮮であ る。																																
149		148.78m: 65° の割れ目面に幅1mmの 緑泥石の硬質な粘土がフィルム状に 付着する。 149.20~149.36m: 割れ目がやや多い が、劣化は伴わない。																																

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記号	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm) R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(標準貫入) 試験 (N 値 ~ 深度) 図		原位置試験 (孔内水圧計)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)		
															N 値	深度													
		151	花崗斑岩	緑灰	緑灰	B _g	bg	β	2		150.04~150.59m: 50~80° で幅0.5m以下の緑泥石鱗片が多く分布する。大半は周囲と同化し、開口割れ目化していない。	CH'																	
		152									150.41m: 石英脈中に幅10mmの白色岩片を塊状に伴う。																		150.59~151.57m: CH 20~40° と70~80° の割れ目が交差し、割れ目がやや多くなる。
		153									151.21m: 85° の割れ目の一部に幅2mmで径2mmの細片化部を挟む。																		151.47~151.52m: 緑泥石化と柱化が進み硬化する。 151.50~151.52m: 石英脈に径0.5mmの暗赤褐色鉱物を伴う。 151.57~152.23m: CH 堅硬・塊状。割れ目やゆる割れ目は幅0.5mm程度に緑泥石化するが、ゆる割れ目の大半は密着度が高く、ハンマーの打撃で分離・細片化しない。一部は開口化する。粘土や砂は挟まない。
		154									152.23~153.85m: CH 堅硬。塊状で割れ目はわずかに分布する。割れ目に挟む物は分布しない。割れ目やゆる割れ目の一部は割れ目がない緑泥石化するが硬質である。 152.50~152.67m: 上下端を幅10~20mmの石英脈に囲まれた範囲に岩片が多数含まれる。岩片に移動や回転は見られない。岩片と基質は同化し、硬質化する。岩片の端部が不明瞭で硬い塊になっており、岩片や石英脈に系統的な配列は見られない。岩片と周辺の岩盤、石英脈は完全にゆる着する。																		153.20m付近に径10mmの大型の橙色のかり長石の結晶が点在する。 153.25~153.60m: 60~80° の高角度な白色筋状のゆる割れ目が数本分布するが、密着度が高く、開口化しない。
			緑灰	緑灰						154.42~154.60m: 緑泥石化が進むが硬質である。上端は30~70° の割れ目が交差し片状化するが、微細な黄鉄鉱を伴う以外は粘土、砂など挟まない。 154.60~156.10m: CH 堅硬。塊状で割れ目は少ない。155.25m以下で60~90° の高角度の白色筋状のゆる割れ目が多いが、密着度は高く、ハンマーの強打でも分離しない。																			

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(標準貫入) 試験 (N値~深度) 図		原位置試験 (孔内水圧計)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)					
															N 値	() 値															
					暗緑灰		II g				160.40~161.45m : CM 堅硬、塊状。上下位に比べ割れ目がやや多い。割れ目に挟在物は分布しない。		CH																		
					にぶい種		IV g				161.10~161.60m : 径5mm前後の大型な暗緑色の緑泥石を斑点状に含む。 61.10~161.24mは石基も緑泥石化が進み、緑灰色を呈する。		GM'																		
					緑灰						161.45~166.65m : GH 堅硬、塊状でコア長20cm以上の長柱状コアが主体。一部に幅1~2mmの白色筋状の主を高角度の仲着割れ目が発達するが、密着度は高く、ハンマーの強打でも分離しない。仲着割れ目には石英を帯状に挟むものも多い。橙色のかり長石が混在する部分も含まれ、にぶい橙色などの橙色系を呈する。緑泥石化は割れ目や仲着割れ目沿いでは殆んど分布せず、径2~5mmの斑点状に晶出する。		CH																		
					灰褐		III g				161.70~161.90m : 60° の割れ目交差部の一部で片状化するが、岩片は堅硬で、砂や粘土は挟まない。 162.12~162.18m : 径10mm前後の大型な橙色のかり長石が点在する。		CH																		
					花崗斑岩		Bg	bg	β	2	162.46~162.57m : 80~90° の仲着割れ目が5~20mm間隔で平行に分布する。密着度が低く、ハンマーの強打で分離する。		CH																		
					灰褐		II g				163.50~163.60m : 高角度割れ目が交差し、一部で片状化するが、岩片は堅硬で、砂や粘土は挟まない。面の一部に黄鉄鉱が晶出する。		CH																		
					にぶい種						164.00~164.30m : 径10mmの大型の橙色のかり長石と同径の緑灰色の緑泥石が混在する。		CH																		
					灰白						164.50m : 径50mmの石英の晶洞で、長石などの二次鉱物を伴う。		CH																		
					にぶい種						164.94m : 70° の密着割れ目、上縁側に幅20mmの石英脈が緑泥石を作って分布する。上下境界共に劣化はない。		CH																		
											164.95~165.89m : 橙色のかり長石の含有量が上位に比べ多くなり、にぶい橙色などの橙色系を呈する。		CH																		